

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・ 昨年は景気の悪い話しか聞こえなかったが、マンション業者や不動産会社などへの提案営業において非常に前向きな話が聞かれるように変化してきた。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・ 1月に入ってから寒波が続き、防寒用品の動きが活発化している。ただし、それ以外の商品については消費に消極的な姿勢を感じる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・ 季節商材の売行きが少し良くなっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・ 年明けの初売りでは、例年にないほどの来客があった。一段落した2週目以降も、気温が低いせいか来客数が落ちることなく順調に推移している。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・ 来客数が増えてきている。
		百貨店（役員）	単価の動き	・ ギフト需要が終わっても、ブランド品や毛皮をあしらったコート・ジャケットなどの高額品の動きが良く、売上を押し上げている。特に婦人服は前年比102%と順調に推移している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・ 昨年の1月は衣料品が不振であったが、今年の売上は前年比101%と前年実績を上回っている。その他の部門については、住居用品が前年比102%、食品が前年比99%、テナント入居している専門店が前年比98%となっている。各部門を合わせた全体の売上は前年比99%となっており、前年比100%の全国とほぼ同程度の数字となっている。来客数については前年比98%であり、全国と同水準となっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・ 10月から1月にかけて販売量は下降線をたどっているが、これは例年の傾向であり、1月の前年比は102%と前年を上回っている。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・ 客単価について、前年比をみると前年の95%から今年は97～98%まで回復している。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・ 依然として薄型テレビとDVDレコーダーの販売が好調であり、来店客の成約率も非常に高い。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・ 前年に比べて販売量が増えてきた。
		一般レストラン（スタッフ）	単価の動き	・ 昨年の9月から5か月連続して客単価が前年を上回っている。来客数は前年並みだが、単価の上昇が売上の増加につながっている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・ 会社単位での新年会はほとんどなかったものの、様々な形での新年交礼会があり、いくらかは来客があった。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・ 地元客の動きは鈍いが、本州からのツアー客や台湾・香港などからの海外旅行者が好調であり、宿泊客が増加しつつある。ただし宿泊単価が低下しており、売上面では手放して喜べない状況である。
		観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・ 宿泊客数は横ばいであるものの、宿泊単価が回復基調にあることから、総収入は増加している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・ 客が増えており、タクシーの乗車回数が伸びている。
観光名所（役員）	販売量の動き	・ ロープウェイの輸送人員数をみると上昇基調にあり、前月までの落ち込みから回復している。		
設計事務所（職員）	お客様の様子	・ アスベストや耐震強度偽装問題などの余波でその対応に追われ忙しい。これらのことが景気回復に好影響を与えているとは思えないが、これらの問題を通しての建築主との会話の中で、建築主の事業投資に対する意欲が以前より高まっていると感じる。		
変わらない	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・ 初売りの3日間は漸減という出足だったが、中旬の大型物産展で客数が伸びた。最上階にある催事場に訪れた客が他のフロアも巡るシャワー効果を久々に感じた。ただし例年にない大雪といったマイナス要因もあり、全体としては変わらないままである。	

	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・1月に入っても寒さが続き、冬物衣料が活発に動いている。特に防寒コート、マフラー、手袋、靴関連の動きが良い状況である。ただし寒波がなければこうした状況にはならなかったため、全体としては変わらない。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・冬物商品が段階的に値下げされるなかで中盤の時期にさしかかっているが、値段の最終プライスの時期を問い合わせる客が多い。
	スーパー（店長）	単価の動き	・プロモーションを強化したことで客数が前年比102%と伸びているものの、売上の伸びにつながらず、逆に客単価の低下、販売点数の減少が続いている状況にある。
	スーパー（企画担当）	単価の動き	・昨年12月の歳末商戦前後から来客数が回復傾向にある一方で、販売単価については、野菜の部分的な相場高、米の価格低下幅の縮小などにもかかわらず、全体の低下傾向に歯止めが掛かっておらず、客単価も伸び悩みが続いている。
	家電量販店（店員）	競争相手の様子	・安売りをやっている店には客が入っているようだが、それ以外の店については客足が分散している。
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・新型車が出て高い車を見に来る人が多いが、買うまでには至っていない。
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・来客数の動きは去年より悪い状態であるが、店舗によっては良いところもあり、地域差が拡大している。
	高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・前年と比較して客数はさほど落ちていないが、低単価での利用が多く、客単価の低下が目立っている。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今年に入り、ビジネス客が目立ってきた。観光客も増加しており、久しぶりに客数、売上とも前年を上回った。客数、売上とも前年から6%のアップだった。
	タクシー運転手	来客数の動き	・1月は降雪が多く、除雪体制も満足でないため、市内のいたるところで交通渋滞がひどくなっており、タクシーの輸送効率が悪くなっている。その上、利用客も減少しており、昨年との比較でも売上が大きく減少している。
	タクシー運転手	お客様の様子	・市内全体の平均でも前年比がマイナスで推移しており、冬期間の需要期の割には売上が伸び悩んでいる。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・相変わらずマイホームセンターへの来場者が少ない。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売量の低下もさることながら、非常に客の出足が悪く、また一戸当たりの単価も低迷している状況である。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・寒さが厳しかったことから、商店街では人があまり出歩かなかった。特に平日の客数が減少しており、販売量も大きく減少した。郊外店も同様の傾向であった。
	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・12月の寒さの影響でコートの購買が前倒しになっており、ジャケットを含めたアウターが好調に推移した反面、全国的にコートが品薄の状態となっている。特にウールコートはアパレルメーカーが生産を絞り気味にしたこともあり、1月への持ち越し在庫も少なく、セール時期の売上に影響している。1月のセールを待たず、12月に購買した客も多かった。セールでの購買動向については、短期集中型の様相が年々加速しており、第1週は前年を上回って推移したものの、第2週からは既にセールが収束したかのように動きが弱まった。
	コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・12月仕入れ分の支払が経営を圧迫しているのが、競争相手の店舗閉鎖が相次いでいる。閉鎖の話が聞こえてくる一方で、新規開店の話は少ない。
	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・インフルエンザ等の流行を見越して、仕入れたマスク、体温計等があまり動かない。その一方でカイロ、湯たんぼ等の季節商品が品切れ状態であり、売りたくても商品の欠品が多い。客数は例年の80%くらいであり、必要なものしか購入しないという傾向が続いている。

		その他専門店 [ガソリンスタンド] (経営者)	単価の動き	・灯油価格の高騰により、客は価格に対してかなりシビアになっている。
		高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・食材の値上げや価格の割引率アップで原材料費がじわじわと上がってきた。牛肉の輸入再開で肉の値下げを期待したが、中止となってしまったことも残念であった。部門別の売上では、レストランの昼食が天候に大きく左右され前年比85%となった。夕食は前年並みであったが、個室は昼の新年会などの利用が減少して前年比60%であった。
		旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・来店客数が伸びず、電話での問い合わせも大きく減少している。
		旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・来店客数がダウンしている。大雪の影響もあり、ツアーのキャンセルも多い。
		美容室 (経営者)	来客数の動き	・寒波と大雪のため歩道、車道とも除雪が滞っており、来客数が昨年に比べて10%程度減少している。
悪くなっている		衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・1月は非常に寒く、また雪が多かったため、客の出足が悪く、商売にならなかった。
		スナック (経営者)	来客数の動き	・前年、前々年度より来客数が少なくなっている。
		旅行代理店 (従業員)	来客数の動き	・2月、3月発の旅行申込の動きが、例年と比べて悪い。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	食料品製造業 (団体役員)	受注量や販売量の動き	・大雪の影響により、除雪費や生活環境維持のための公共事業費等が追加補正支出されることになり、地域の中小企業にも恩恵が生じている。また消費者の買いだめ等により、生鮮加工食品は前年と比較して10%程度増加している。
		通信業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・季節要因もあるが、3か月前との比較では明らかに受注件数、問い合わせ数が増加している。また付加価値の高い商品、サービスにシフトする客も増加している。
		広告代理店 (従業員)	取引先の様子	・2月1日に上磯町と大野町が合併して北斗市が誕生するが、これに関連して記念広告やセール、イベント等の動きが出てきている。
変わらない		輸送業 (経営者)	取引先の様子	・運輸関係では燃料の高騰による影響が出ている。その反面、函館では新幹線着工に付随する工事がいくつか出てきているなど、明るいニュースもある。
		輸送業 (支店長)	受注量や販売量の動き	・建築物件では、札幌市の高さ規制の問題があり、現在、駆け込み需要が発生している。その部分ではかなり需要が出ているが、そのほかの地域全体で見ると鉄骨の使用量は前年比で半減している。また道内物件は好調に推移しているものの、コストの安いコンクリート製品への移行が目立っている。
		輸送業 (営業担当)	取引先の様子	・燃料価格差を料金に反映させる動きが浸透して、大半の荷主より収受できるようになってきたが、船社の運賃とはいまだに格差があり、厳しい負担増が続いている。
		金融業 (企画担当)	それ以外	・設備資金は増加しているが、一般企業向けは伸び悩んでいる。昨年末以降、低温や大雪で冬物商品の売行きが好調であるが、タクシーなど輸送業界は雪が支障となっている。ガソリンなど燃料費の値上がりは企業の収益を圧迫しているほか、家計においても暖房費がかさんでいる。観光は知床周辺は堅調であるが、そのほかの地域ではバラツキがある。
		司法書士	取引先の様子	・例年と比べて降雪量が多く、土地取引や建物の新築が減少している。
		その他サービス業 [建設機械リース] (営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・民間設備投資がわずかながら増加しているが、依然として受注価格などに変化はみられない。
		その他サービス業 [建設機械リース] (支店長)	取引先の様子	・年度末を迎えるが、設備導入の情報や販売側のおう盛な動きがみられない。

	やや悪くなっている	金属製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・大雪の影響で道内では雪関連製品が活発に動いているが、それ以外の製品を作っている企業では、雪の影響が重荷になっている。除雪費用がかさみ、また燃料代もかかり、決して良い状態ではない。
		その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・例年、加工機械及び消耗資材の1～2月の販売量は減少するが、今年は予想以上に減少している。
		その他企業〔コンベンション担当〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・降雪が多い影響か本州客の動きが例年より悪い。さっぽろ雪まつり期間の予約も現時点では前年より10%程度減少している。
	悪くなっている			
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・正月商戦ということもあり、スーパー、家電量販店を中心に販売スタッフ派遣の依頼が多く、併せて販売促進に関連する人材派遣の依頼も多数寄せられた。企業の売上確保に向けた活動が活発になったことを示している。正社員の採用には、いまだ慎重ではあるものの、中途採用の意欲も強まってきており、企業経営に活力が戻りつつある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人情数の伸びを前年と比較すると6%のプラスと増加傾向にはある。しかし求人企業においても、景気が非常に良いという話はなかなか聞かない。例えば小売業の場合、売上好調で募集するというよりは、顧客獲得のための出店、店舗リニューアルに伴う募集が多い。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・年末の低迷から復調しつつあり、年明け当初の落ち込みが、月末にはほぼ前年並みまで回復している。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・大学への求人依頼は多くなっている。しかし採用まで結びついておらず、内定率は前年を若干上回っている程度となっている。一方で開催予定の企業説明会への申込企業数は昨年比べて50社程度増えている。
変わらない		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人広告件数がわずかながら増加しているものの、特に飲食、販売系で求人広告を繰り返し出すリピーターが多く、新規求人が増加している訳ではない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・これまで求人数の前年比は増加傾向を示していたが、ここに来て微増にとどまっており、採用の活発化がみられない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は増加傾向にあるが、人件費抑制の観点から、非正規雇用化が進んでおり、正規雇用に移行する動きがみられない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比110.1%と引き続き増加となった。産業別で見ると、建設業、製造業、運輸業が増加となったが、医療福祉、金融保険業が減少となった。4月からの累計では前年比115.0%となっている。
	やや悪くなっている			
	悪くなっている	-	-	-